

5. 観光地・景勝地

(流域上流部)

山中山の山中峠には、岐阜県の天然記念物に指定されているミズバショウが生育している湿地があります。

中野展望台には、樹齢400年をこえるアズマヒガンザクラ「荘川桜」があります。

(流域中流部)

庄川流域における観光・景勝地の代表的なものとして、平成7年12月に世界遺産に登録された菅沼合掌集落・相倉合掌集落・白川郷の荻町合掌集落があります。

鉢伏山山頂にある展望台からは扇状地に民家が点在する散居村を特徴とした砺波平野や日本海を一望できます。周囲は冬季、夢の平スキー場となります。

上流から下流まで地形の変化に富む庄川流域には、黒滝など落差約70mのものなど大小様々な滝があり、また庄川の侵食によりできた鎧壁等があります。

庄川峡の奥地には、大牧温泉などの庄川温泉郷があり、塩化ナトリウムなどの物質を含んだ温泉は体に良いと言われ、たくさんの人が訪れています。

(流域下流部)

南砺市には、井波彫刻で有名な瑞泉寺があるほか、砺波市には、砺波市特産で市の花であるチューリップをテーマにしたチューリップ公園があります。

高岡市には、加賀藩二代藩主前田利長公の菩提寺である瑞龍寺、日本三大仏の一つである高岡大仏があります。



図 2-12 合掌集落



図 2-14 散居村



図 2-13 黒滝



図 2-15 鎧壁



図 2-16 庄川峡

6. 特徴的な河川景観

庄川流域の上・中流部は庄川峡に代表される峡谷が連続しており、御母衣ダム・小牧ダムによるダム湖とブナ・ナラ等の自然林が雄大な環境を創り出し、連続したダム湖がV字谷を映して水面をたたえ、山々と広大な水面が調和して独特の景観を形成しています。また、河川に沿って階段状の河岸段丘が形成され、流域下流の平野部においては広い石河原に連続した早瀬、平瀬が存在し、豊富な地下水が河川敷内のいたるところに湧水としてあらわれています。



図 2-17 湧水地群



図 2-18 御母衣ダム・御母衣湖

7. 文化財・史跡・天然記念物

庄川流域には、国指定の有形文化財 6 件、登録有形文化財 2 件、史跡 3 件、天然記念物 5 件、県指定の有形文化財 13 件、有形民俗文化財 1 件、無形民俗文化財 4 件、史跡 2 件、名勝 1 件、天然記念物 21 件があります。また、庄川の想定氾濫区域内には、国宝瑞龍寺及び国指定の有形文化財 15 件、登録有形文化財 23 件、有形民俗文化財 1 件、無形民俗文化財 1 件、県指定の史跡 4 件、天然記念物 2 件、有形文化財 25 件、無形民俗文化財 3 件があります。

また、史跡として、江戸時代初期に水害対策として築堤とともに松の木を数百本植えたと言われる松川除、庄川流域を洪水から守る水神として古くから流域の人々に崇敬されてきた弁財天、庄川の分流跡を整備した二万石用水等があります。



図 2-19 瑞龍寺



図 2-20 松川除



図 2-21 弁財天



図 2-22 二万石用水

8. 自然公園等の指定状況

庄川流域の広域的な緑地資源としては、石川、岐阜県境部の白山国立公園、長良川との分水嶺となっている奥長良川県立自然公園、支川利賀川上流の白木水無県立自然公園、平、上平村の合掌集落を中心とした五箇山県立自然公園、庄川峡県定公園、射水丘陵に頼成の森等の県民公園、高岡市内に高岡古城県定公園等があります。

また、流域下流部において、庄川河川敷も緑地公園として活用されています。

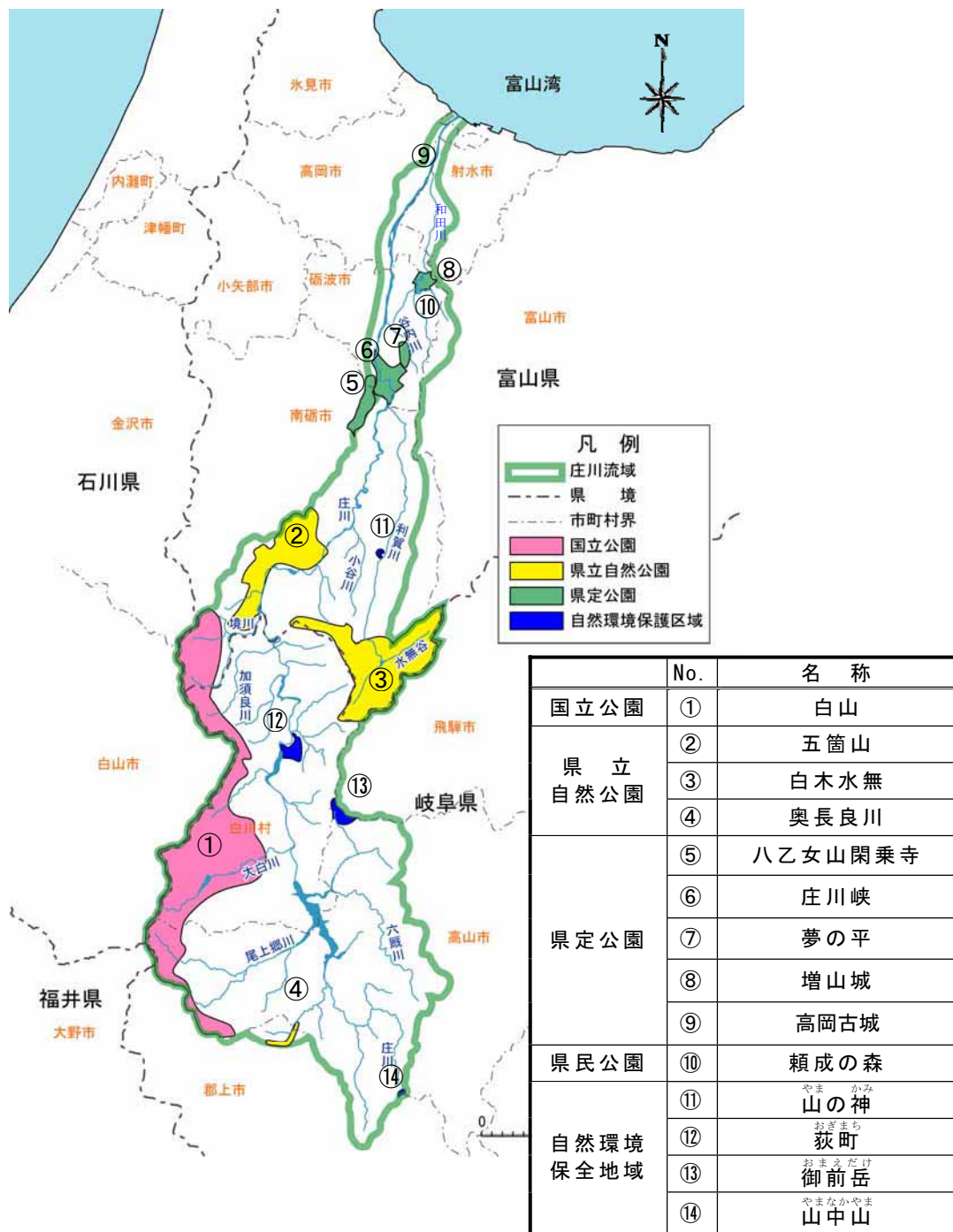


図 2-23 庄川流域の自然公園

9. 庄川流域等の土地利用

庄川流域は、その地形的特徴から約 93%が山地であり、流域中流部の河岸段丘上には世界遺産にも指定されている白川村・五箇山などの合掌集落が見られます。また、庄川用水合口ダム左岸周辺には庄川温泉が隣接し、庄川にゆかりの一体的な観光レクリエーション地を形成し、砺波市庄川町の中心市街地が隣接しています。庄川用水合口ダムから大門大橋にかけては、両岸の砺波、射水両平野に形成された水田地帯が広がっています。

大門大橋から河口にかけての左岸に高岡市の中心市街地、右岸に射水市の中心市街地が隣接しています。特に、左岸側では大規模な工業施設が庄川と接するなど、右岸に比べ左岸の市街地の集積度は高くなっています。

表2-2 庄川流域地形別面積

項目	流域全体	山地等	農地			宅地等
			水田	畑	計	
面積 (km ²)	1,189	1,108.5	54.9	13.0	67.9	12.6
構成比 (%)	100	93.2	4.6	1.1	5.7	1.1

出典：庄川流域の概要 (S62.3)

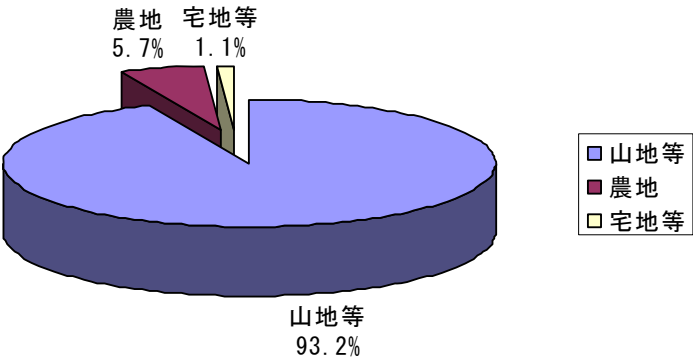


図2-24 庄川流域地形別面積

表2-3 庄川流域土地利用別計画面積

	流域全体	都市地域	農業地域	森林地域	自然公園地域	自然保全地域
面積 (km ²)	980.3	27.8	114.0	663.0	102.2	73.3
構成比 (%)	100.0	2.8	11.6	67.6	10.4	7.5

出典：河川現況調査 (H12)

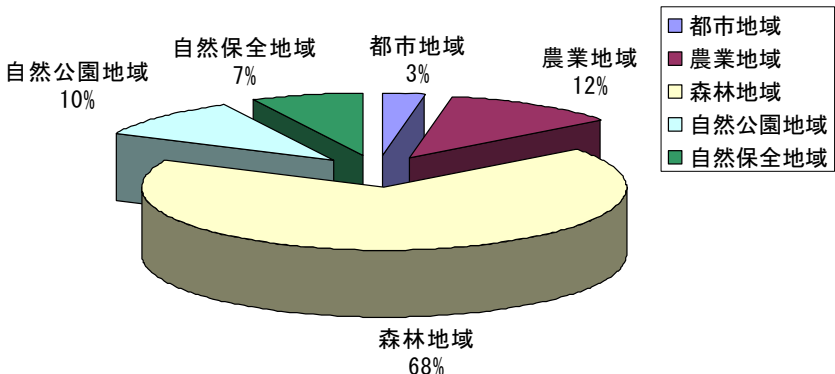


図2-25 庄川流域土地利用別計画面積

10. 人口

庄川流域の関係市町村における総人口は約 29 万人です。うち約 28 万人(96.6%)を富山県が占めています。また、人口は昭和 55 年ごろから横ばいですが、世帯数は増加傾向となっています。

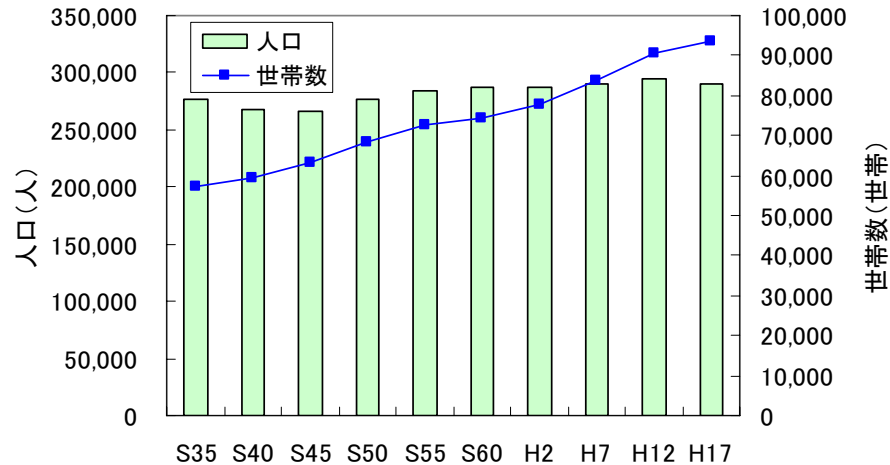


図2-26 関係市町村人口・世帯数の推移

表2-4 関係市町村の人口の推移

県名	市町村名		昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
	合併後	合併前										
富山県	高岡市	高岡市	151,226	155,108	159,664	169,621	175,055	175,780	175,466	173,607	173,234	167,690
	砺波市	砺波市	36,453	34,768	34,023	34,286	35,830	36,516	37,070	38,531	40,900	49,429
		庄川町	7,853	7,772	7,380	7,519	7,700	7,634	7,451	7,387	7,311	
	富山市	婦中町	23,928	23,082	22,788	24,313	26,458	27,952	28,667	32,579	34,740	36,370
		山田村	3,093	2,695	2,302	2,184	2,188	2,143	2,279	2,200	2,083	1,868
	射水市	大門町	12,194	11,693	11,378	11,938	12,036	12,393	12,261	12,284	12,467	12,387
	南砺市	平村	3,269	3,094	2,401	2,110	1,829	1,770	1,727	1,620	1,481	1,357
		上平村	1,729	1,428	1,142	1,100	1,103	1,070	1,068	1,016	1,007	826
		利賀村	3,038	2,568	1,961	1,529	1,328	1,310	1,137	1,161	1,110	869
		井波町	12,339	12,068	11,789	11,637	11,601	11,540	11,315	10,929	10,407	10,004
	小計		255,122	254,276	254,828	266,237	275,128	278,108	278,441	281,314	284,740	280,800
岐阜県	郡上市	高鷺村	4,265	3,871	3,638	3,596	3,380	3,426	3,468	3,475	3,484	3,600
	高山市	清見村	4,331	3,456	2,881	2,652	2,551	2,576	2,541	2,568	2,657	2,690
		荘川村	3,560	2,376	2,324	2,163	1,694	1,562	1,450	1,390	1,345	1,376
	白川村	白川村	9,436	3,211	2,525	2,381	2,132	2,001	1,892	1,893	2,151	1,983
	小計		21,592	12,914	11,368	10,792	9,757	9,565	9,351	9,326	9,637	9,649
合計		276,714	267,190	266,196	277,029	284,885	287,673	287,792	290,640	294,377	290,449	

出典：とやま統計ワールド・岐阜県統計書デジタルアーカイブ・平成19年国勢調査・高山市HP 地域人口

表2-5 関係市町村の世帯数の推移

県名	市町村名		昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
	合併後	合併前										
富山県	高岡市	高岡市	32,438	35,878	39,475	43,521	46,136	47,106	49,523	52,456	55,997	56,458
	砺波市	砺波市	7,090	7,249	7,499	7,847	8,317	8,531	8,944	10,083	11,390	15,007
		庄川町	1,633	1,664	1,682	1,768	1,883	1,928	1,925	1,977	2,130	
	富山市	婦中町	4,711	4,788	5,033	5,561	6,267	6,668	7,043	8,583	9,768	11,021
		山田村	548	526	493	470	472	472	460	484	480	549
	射水市	大門町	2,380	2,414	2,481	2,734	2,813	2,931	2,990	3,176	3,352	3,564
	南砺市	平村	658	631	573	534	555	534	519	518	511	427
		上平村	311	295	269	257	382	345	435	357	359	219
		利賀村	473	425	374	323	388	440	399	440	451	285
		井波町	2,538	2,610	2,675	2,782	2,836	2,841	2,858	2,899	2,964	3,014
	小計		52,780	56,480	60,554	65,797	70,049	71,796	75,096	80,973	87,402	90,544
岐阜県	郡上市	高鷺村	928	919	898	907	898	923	955	1,009	1,063	1,045
	高山市	清見村	907	781	668	637	660	666	672	680	813	790
		荘川村	691	508	542	515	555	485	435	452	429	436
	白川村	白川村	1,761	768	672	645	681	641	628	662	912	783
	小計		4,287	2,976	2,780	2,704	2,794	2,715	2,690	2,803	3,217	3,054
合計		57,067	59,456	63,334	68,501	72,843	74,511	77,786	83,776	90,619	93,598	

出典：とやま統計ワールド・岐阜県統計書デジタルアーカイブ・高山市HP 地域人口

11. 産業

流域内の産業は、銅器・彫刻といった伝統的産業のほか、流域の豊富な水資源と安価な電力を背景に金属加工産業も発展しています。特にアルミサッシ等の軽金属製品においては、出荷シェアで1位であり、銅・銅合金の鋳物においても全国1位のシェアとなっています。

就労者人口は、平成17年度で約50万人であり、産業別に見ると第1次産業4.5%、第2次産業32.4%、第3次産業63.1%となっています。産業の主なものは、扇状地下流部のアルミ、パルプ、重化学工業の他、伝統的な地場産業として、高岡市の鋳物・陶器、南砺市の木彫、砺波市の木工、五箇山の和紙があります。一方、高岡市、射水市は富山テクノポリス地域の指定を受けており、富山新港の整備とあいまって、今後発展が期待されています。

表2-6 流域内市町村の労働力構成（平成17年）

県名	市町村名	第1次産業 (人)	第2次産業 (人)	第3次産業 (人)	合計 (人)	第1次産業 (%)	第2次産業 (%)	第3次産業 (%)
富山県	高岡市	2,646	32,458	57,973	93,077	2.8%	34.9%	62.3%
	射水市	1,483	16,685	30,825	48,993	3.0%	34.1%	62.9%
	砺波市	1,610	10,035	14,974	26,619	6.0%	37.7%	56.3%
	南砺市	2,179	12,766	15,978	30,923	7.0%	41.3%	51.7%
	富山市	6,561	64,856	141,255	212,672	3.1%	30.5%	66.4%
	小計	14,479	136,800	261,005	426,867	3.5%	33.2%	63.3%
岐阜県	飛騨市	1,326	5,508	8,006	14,840	8.9%	37.1%	53.9%
	白川村	32	437	809	1,278	2.5%	34.2%	63.3%
	高山市	5,726	13,001	33,709	52,436	10.9%	24.8%	64.3%
	小計	7,084	18,946	42,524	68,554	10.3%	27.6%	62.0%
合計		21,563	155,746	303,529	480,838	4.5%	32.4%	63.1%

出典：農林水産省「わがマチわがムラ」

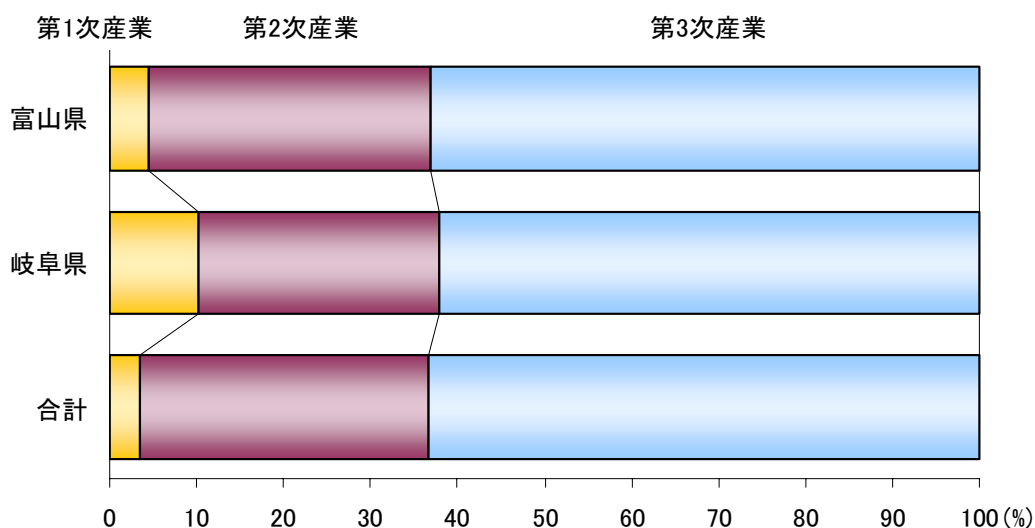


図2-27 関係市町村の産業就労人口の構成比【平成17年】

12. 交通

庄川本川に沿って続く一般国道 156 号は、岐阜市・白川村・五箇山地方から砺波平野を結ぶ重要な幹線であります。これは、庄川の電源開発に伴って整備が進められた国道ですが、過去には急峻な地形と積雪のため、冬期や雨期には落石や崩壊のため通行不能となることも度々発生しています。このような悪条件を克服し、常時通行が可能となったのは昭和 54 年になってからのことです。それ以前の冬期の南北交通はダム湖を利用した舟運が唯一の手段でした。現在、東西方向には一般国道 8 号、北陸自動車道が、南北方向には一般国道 156 号とともに日本海交流ネットワークの要となるべく地形的条件や地理的条件を克服し、東海北陸自動車道が整備されており安定した物流体制の整備が進んでいます。

鉄道においては、JR 北陸本線による東京、大阪方面へのルートが確保されています。また東京を基点として長野・上越・富山・金沢等の主要都市を経由する北陸新幹線も整備中であり、道路の整備と共に庄川流域等の産業振興や地域開発に貢献するものと期待されています。更に JR 氷見線・JR 城端線があり、流域内の移動手段として利用されています。



図 2-28 庄川流域等の交通網